実施者

≪教　員≫千葉大学デザイン・リサーチ・インスティテュート　教授 植田 憲 / 助教 青木 宏展

≪参加者≫千葉大学大学院融合理工学府 博士後期課程２年　蘇 文宇
博士前期課程２年　シムヘウォン，Zzyafra lomaski Zihana
博士前期課程１年　ソミンジョン，李 新博
千葉大学工学部デザインコース４年　丸山新世，由川 巧真
千葉大学工学部デザインコース３年　奥山 圭悟，高原 弘祐，橋本 沙良，細谷 風太，野坂 海智，
その他工学部デザインコース開講科目「デザイン文化計画演習」履修者８名

≪協働パートナー≫
【行　政】南房総市市民課，千葉県安房農業事務所，館山市立博物館（館山市），千葉県文化振興課（千葉県）
【企業等】道の駅とみうら枇杷倶楽部，東安房漁業協働組合，マリンハウス六治郎，サザンコースト，高塚不動尊，
スズ市水産，彫金工房冨銀（館山市），妙海寺（勝浦市），千葉県沿岸小型漁船漁業協同組合（勝浦市ほか）
【個　人】そらまめ生産者の方々，國府田 秀樹 氏

1. 背景

本活動は，2017 年から COC+(「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」）事業で実施してきた取り組みの一部であり，南房総市の地域資源再発見・利活用により地域活性化を図るプロジェクトの一環である。

近年，少子高齢化や地域過疎化等の影響により，生活のなかで創出・継承されてきた知恵の断絶が懸念されている。千葉大学デザイン文化計画研究室では，野外調査を中心として実際に地域の生活に触れながら地域資源再発見し，それらを利活用に基づくデザイン提案を行ってきた。

本年度の中心的な取り組みである「海のデザインサーベイ」は千葉大学工学部デザインコース開講科目のデザイン文化計画演習という講義の一環として実施した。同コースに在籍する学部３年生を中心として，海と「生業」「楽しみ」「食」「信仰」の４つのテーマに基づき，調査ならびにデザイン提案を行った。

「万祝の型紙デジタルデータの活用」は，安房地域発祥とされる漁師の祝着「万祝」の型紙のデジタルデータの活用提案を継続するものである。

また，「そら豆のパッケージデザイン」では現地調査で得られた知見に基づき，地域内外の生活者へ南房総市の食文化を共有・発信することにより地域の活性化を図ることを目的とし，今年度は，昨年度提案したパッケージの問題点を再確認し，改善の方針を策定した。

2. 実施内容

2.1. 海のデザインサーベイ

(1) 概要ならびに各班における調査内容

本活動は学生が上述した4つのテーマに応じた班で活動し，2022 年9月 26 日～ 10 月１日の合計６日間で地域の踏査ならびに生活者への聞き取り調査，調査のまとめ，調査に基づくデザイン提案を行った。なお，宿泊地は白浜フローラルホール，最終成果報告会の会場はちくら介護予防センターゆらりであった。また，各班には大学院生ら TA（ティーチング・アシスタント）が随伴し，調査計画を立案のうえ，それぞれのテーマに基づき五感を通して調査を行った。

各班の調査内容は以下の通りである。

・「海と生業」班

元海女の方や現役で最年少の海士の方への聞き取り，伊勢海老やアワビの栽培漁業を行う東安房漁業組合の施設や勝浦朝市の訪問，海岸の散策を通し，海にまつわる産業の詳細やそれに携わる人の生活や地域の歴史などについて調査を行った（図 1）。

・「海と食」班

海産物や干物などの海産加工品を扱う商店，道の駅，安房漁業組合の施設などへの訪問や聞き取りを通し，食品の種類や生産法と歴史，そしてレシピや風習といった実際の生活での親しまれ方について調査を行った。

・「海と楽しみ」班

千倉海水浴場，富岡海水浴場，沖ノ鳥半島，岩井海岸，館山サザンビレッジといった海の娯楽に関わる場所へ赴いたり，サーフィンや釣り，貝磨きといった海の資源を用いた活動を知る方への聞き取りを行い，海にまつわる娯楽について調査を行った。

図 1. 調査の様子（「海と生業」班）

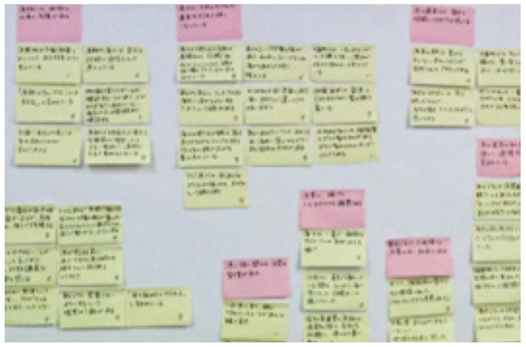

図 2. KJ 法により得られたまとめ（「海と生業」班）

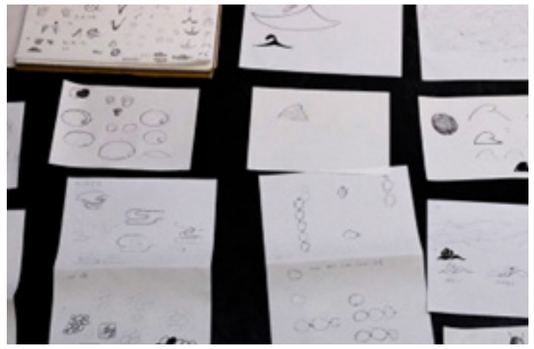

図 3. デザイン提案であるロゴの発想（「海と生業」班）

域学協働の工夫！

★海のサーベイにおいては，地域と深い関わりのある市民課の方々のご紹介により，長きにわたり地域で生活されていた方々をご紹介いただくことができた。

★今回の「海のサーベイ」においては，地域の生活者の声を拾い上げることを目的としていたが，これまでのプロジェクト内で築いた関係により，地域の生活者からも直接さまざまな方を紹介いただくことができ，安房地域の生活に根差したさまざまな資源を再発見することができた。

・「海と信仰」班

高塚不動尊，日枝神社をはじめとした寺院や神社を訪問し，社寺に付される彫刻の観察や，地域での海にまつわる伝承，白間津の大祭（オオマチ）など特有の祭りの様子についての聞き取りをはじめ，南房総で生活してきた人々の，海における安全や豊漁を願う信仰などについて調査を行った。

(2) 調査のまとめとデザイン提案，成果報告

調査の後，調査で得られた情報や発見したものの関係性を KJ を用いて解析し，調査のまとめを実施した。なお，KJ 法は，調査で得た情報を文章として一定の量・質的単位で移動可能な物理的メディアに記録した後，それらをさまざまに移動して情報ごとのまとまりや関係性を見出す手法である（図2）。今回は付箋を使用して，調査を通して発見した事物を整理していった。

KJ 法の後，それらの事物やそのまとまりの関係性から南房総の海，ひいては千葉県の海がどのような資源や特徴を持つのかを分析し，“海のブランド” としてのロゴデザイン等を各班で制作した。

10 月１日には行政や調査で関わった方々を招き，最終成果報告会を行った。以下にて各班の提案内容の概要を示す。

「海と生業」班が提案したのは「アムアミ」という複数の活動から形成される海のブランドである。地域の生活者を中心として，デザイナーや編集者と協働で冊子を作り上げ，最終的に地域の生活者が独立して季刊の小冊子を発行する活動や，未利用資源であるひじきやかじめを獲る体験を，地域の子どもたちにレジャーとして提供する活動等が含まれる（図4）。

「海と食」班では調査の中で発見した食に関する資源に注目したツチクジラをモチーフにした海のブランドロゴに加えて，船上レストランや釣りのマナーを提示する標識，クジラのタレのキャラクター，未利用魚種の利用を推進するためのブランドロゴ，鯨の加工品のガイドブックなどを提案した（図5）。

「海と楽しみ」班では，「なみあそび」「ナミナギ」「貝磨き」とい

図 4. 海と生業班のデザイン提案（上段：海のブランドロゴ、下段左：未利用資源の活用提案イメージ、下段右：生活者らが編集する季刊誌のイメージ）

図 5. 海と食班のデザイン提案（上段左：海のブランドロゴ、上段右：クジラの加工品ガイドブック、下段左：釣りマナーを提示する標識、下段中央：未利用資源活用推進のロゴ、下段右：クジラのタレのキャラクター「クジラのターレ」）

図 6. 海と楽しみ班のデザイン提案（上段：「なみあそび」ブランドロゴ、下段左：「ナミナギ」ブランドロゴ、下段右：「貝磨キ」ブランドロゴ）

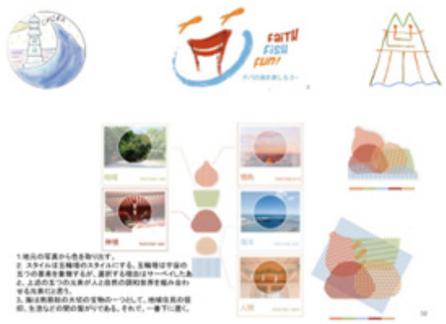

図 7. 海と信仰班のロゴデザイン案

う4つのブランドとそれらで展開される諸活動についての提案を行った。「なみあそび」は，サーフィンや釣りだけでなく，何気ない散策や波と戯れることも海における楽しみと捉え，それを”なみあそび”という言葉とロゴでしめすブランドである。また，「ナミナギ」というブランドではサーフィンにおいてただ波に揺られる行為を”凪ぐ”と名づけ，それをリラグゼーションとして紹介しており，「貝磨き」は，貝磨きという既存の活動にロゴやイメージを与えることで，ブランドとしての側面を作り上げている（図6）。

「海と信仰」班では千葉県の海を象徴する 5 つのロゴを提案している。魚や波，鳥居がモチーフとして組み込まれているロゴや，地元の風景から抽出した色で図形を彩りそれを1つにまとめることで千葉県の海にある自然的，文化的資源を象徴することを試みているロゴなどを提案した（図 7）。

2.2. 万祝の型紙デジタルデータの活用

万祝の型紙デジタルデータの活用では，昨年度から継続している成人式（本年より「はたちの集い」に改名）で配布する記念品としてのクリアファイルの作成を行った。今年度は，より南房総市としての地域性を反映させるべく，館山市立博物館所蔵の万祝型紙の中から，かつて千倉町に位置した紺屋で使用されたとされるものを選定し，デザインを行った。昨年度同様，過去の作例を見本としつつ，彩色したデジタルデータを作成し，それをクリアファイルに配置したものを完成品とした（図8）。本品は今年度のはたちの集いで配布され，新成人からも「記念品をつくってもらってうれしい」「万祝に興味を持った」等の声があったという [注 1]。本試みについては，来年度も実施が予定されており，すでにそのためのデザイン作成に取り組んでいる。

一方，道の駅とみうら枇杷倶楽部ですでに販売実験を行っている万祝製品（クリアファイル・サコッシュ）等について，本年度はクリアファイル 39 点，サコッシュ7点が販売された（2023 年2月 17 日現在）ことを併せて報告する。

2.3. 白浜のそらまめパッケージデザイン

本プロジェクトは，2021 年度から展開している。昨年度は試験販売を通じたアンケート調査と，その結果を踏まえてデザインの修正を行った。また，前年度までで提案されていたレシピの記載やウェブサイトの誘導ついては，その記載位置やウェブサイトの運営が継続して可能かどうかの検討がなされていないため，それらの問題の改善を行うこと，そして改めて担当する学生らで白浜地区に赴きそらまめの栽培や販売の調査を行うことを来年度中に行うことを計画している。

図 8.「はたちの集い」記念品クリアファイルの完成データ
[注 1]『万祝柄クリアファイル配布 千葉大生制作 はたちの集い出席者に』、房日新聞、1、2023 年 1 月 17 日

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

「海のサーベイ」については，南房総市での「海」に関わる生活者の方々へ聞き取り調査を行い，その結果，多様な資源が再発見された。それらに基づくデザイン提案からは「実際に使用したい」との声も聞かれるなど，「海」に基づく地域活性化へ向けた機運が高まったといえる。今後はそれらのデザイン提案の実施に向けて活動を行いたい。一方で，提出したデザイン提案はおよそ一週間での集中的な調査に基づくものであるため，まだまだ検討が必要なものもある。今後については，それらの実現に向けて，着実に準備を進めたい。

一方，そら豆ならびに万祝プロジェクトについては，今後さらに精力的に進展させていきたい。

(2) 教育・研究面

「海のサーベイ」については，学部3年生を主に対象とした授業の一環で実施した。彼らはコロナ禍ゆえに，オンラインでの授業や学外に出ることもままならない学年であった。今回のサーベイでは，五感を通して南房総市内の自然に触れ，生活者の方々の生の声を聞いたうえで，デザイン提案を行った。これらから，実社会と連動したデザイン活動をまさに体感させることができた。一方，万祝のクリアファイル制作においては，新たに携わった学生もおり，デザイン作成を通じて，地域の造形の精緻さや多様性を学ぶことができたと考えられる。

3. 今後の展開

海のサーベイにおいてはデザイン提案の実現に向けて着実な進展を図りたい。万祝のデジタルデータの活用については，来年度についても「はたちの祝い」のためのクリアファイルの作成を行う予定である。加えて，現在展開を行っている万祝製品についても見直しを行い，より南房総市の地域性を反映させた展開をはかる予定である。加えて，そら豆プロジェクトについても，提案にとどまっているデザイン提案を社会実装させるべく準備を進めたい。

＊表彰・マスコミ掲載など

1.『万祝柄クリアファイル配布 千葉大生制作 はたちの集い出席者に』、房日新聞、1、2023 年 1 月 17 日
2.『海を PR するデザイン作成 千葉大工学部デザインコース学生 18 人が成果報告会』、房日新聞、4、2022 年 10 月 8 日